

卷 頭 言

今日は土用の丑の日です。例年ならばとつくに真夏の太陽がチリチリと照りつける日頃ですが、今年の梅雨はかなりに変調で未だにあがり切りません。その根本理由については今日の気象学で殆んど何も判つていません。

私達は真理の探求に向つてあくまで精進しなければなりません、神の意志を反映する真理をただ真理として愛するにとどまるならば、それは一種の偶像でしょう。真理は我々が神に到達するための手段でなければならぬから、単に真理を愛するにとどまらず更にこれを慈愛への出発点としなければならぬと思います。かくてこそ学と道との一元的な筋が通るものと考えます。このことは最近パスカルのパンセを読み直して感じたところではあります。

「地学しずはた」も教室職員や学生諸君のたゆまざる御努力と御援助によつて既に14号を重ねるに到りました。お互に学の人としてのみならず道の人としても完成する日を望みながら、日一日を迎え、また送りたいと思います。大変耶蘇臭いお説教で恐縮ですが、私の正直なところを述べさせていただきます。

昭和32年7月28日 佐々倉 航三